

MELSEC QnA3E プロバイダ

Mitsubishi Q シリーズ E71 QnA 互換 3E フレーム

Version 1.1.3

ユーザーズ ガイド

October 29, 2021

【備考】

【改版履歴】

バージョン	日付	内容
1.0.0	2015-5-7	初版.
1.1.0	2016-2-3	CaoController::AddVariable メソッドのオプションに, VT, Elem, Array 項目を追加. VT, Type 項目に指定可能な文字列として Bool, I1, UI1, I2, UI2, I4, UI4, R4, R8, BSTR, Float, Double, String を追加.
1.1.1	2019-09-04	Param オプションの格納処理 バグ修正
1.1.2	2019-09-20	CaoController::AddController メソッドのオプションに, ASCII オプション追加.
	2020-02-13	誤記修正
1.1.3	2020-04-20	AddVariable 時の処理修正
	2020-10-30	付録 他局アクセスを追加
	2021-05-17	誤記修正
	2021-10-29	指定可能な要求先ユニット I/O 番号, 局番号の一覧を追加. VT 項目の I1, UI1 の注記を修正.

【動作確認機種】

機種	バージョン	注意事項
Q04UDVCPU		MELSEC Q シリーズ
R02CPU		MELSEC iQ-R シリーズ

目次

1. はじめに	4
2. プロバイダの概要	5
2.1. 概要	5
2.2. 使用上の注意点	5
2.2.1. CPU ユニットとの接続について	5
2.3. メソッド・プロパティ	6
2.3.1. CaoWorkspace::AddController メソッド	6
2.3.1.1. Conn オプション	6
2.3.2. CaoController::AddVariable メソッド	7
2.3.2.1. Param オプション	9
2.3.2.2. VT オプション	10
2.3.2.3. Type オプション	11
2.3.2.4. Elem オプション	12
2.3.2.5. Elements オプション	13
2.3.2.6. Array オプション	13
2.4. エラーコード	14
2.5. サンプルプログラム	15
3. 付録	16
3.1. 他局アクセス	16
3.1.1. 親 PLC の設定	17
3.1.1.1. 内蔵 Ethernet ユニットの設定	17
3.1.1.2. 拡張 Ethernet ユニット 1 の設定	18
3.1.1.3. 拡張 Ethernet ユニット 2 の設定	19
3.1.2. 子 PLC の設定	20
3.1.2.1. 内蔵 Ethernet ユニットの設定	20
3.1.2.2. 拡張 Ethernet ユニットの設定	21
3.1.3. 接続パラメータ設定	22

1. はじめに

本書は三菱電機製の MELSEC Q シリーズ QnA 互換 3E フレームの CAO プロバイダである, MELSEC QnA3E プロバイダのユーザーズガイドです.

MELSEC プロバイダは三菱電機製シーケンサ MELSEC Q シリーズの CPU ユニットのイーサネットユニットを対象として MC プロトコル通信を行います. MC プロトコルの詳細につきましては,三菱電機製の「MELSEC-Q/L MELSEC コミュニケーションプロトコル リファレンスマニュアル」(以下 MELSEC マニュアル)を参照ください.

2. プロバイダの概要

2.1. 概要

MELSEC QnA3E プロバイダは、三菱電機製シーケンサと通信するためのユニットに依存する部分を吸収し CAO プロバイダ・インターフェース仕様で規定された機能を提供する CAO プロバイダです。そのファイル形式は DLL(Dynamic Link Library)であり、CAO エンジンから使用時に動的にロードされます。MELSEC QnA3E プロバイダを使用するにあたっては ORiN2SDK をインストールするか、下表を参照して手作業でレジストリ登録を行う必要があります。

表 2-1 MELSEC QnA3E プロバイダ

ファイル名	CaoProvMELSECQnA3E.dll
ProgID	CaoProv.MELSEC.QnA3E
レジストリ登録 ¹	Regsvr32 CaoProvMELSECQnA3E.dll
レジストリ登録の抹消	Regsvr32 /u CaoProvMELSECQnA3E.dll

2.2. 使用上の注意点

2.2.1. CPU ユニットとの接続について

PC と CPU ユニットの接続につきましては、シーケンサのマニュアルを参照して下さい。

¹ ORiN SDK でインストールした場合は手動で登録/抹消する必要はありません。

2.3. メソッド・プロパティ

2.3.1. CaoWorkspace::AddController メソッド

MELSEC QnA3E プロバイダでは Controller オブジェクトの生成時に、イーサネット(TCP)通信の初期処理を行います。接続時にオプション文字列でデバイスを指定します。

書式 AddController(<bstrCtrlName:BSTR>,<bstrProvName:BSTR>,
<bstrPcName:BSTR > [,<bstrOption:BSTR>])

bstrCtrlName : [in] コントローラ名
 bstrProvName : [in] プロバイダ名. 固定値 =" CaoProv. MELSEC. QnA3E".
 bstrPcName : [in] プロバイダの実行マシン名
 bstrOption : [in] オプション文字列

表 2-2 CaoWorkspace::AddController のオプション文字列

オプション	意味
Conn=<接続パラメータ>	必須. 通信形態とその接続パラメータを設定します.
ASCII=<True or False>	交信データコードを設定します. False: バイナリ通信 True: ASCII 通信 (デフォルト: False)
Timeout=<タイムアウト時間>	TCP 通信におけるタイムアウト時間をミリ秒で設定します. (デフォルト: 5000)

2.3.1.1. Conn オプション

以下に Conn オプションの接続パラメータ文字列を示します。

"Conn=ETH:<接続先 IP>:<接続先ポート>"

"Conn=TCP:<接続先 IP>:<接続先ポート>"

<接続先 IP> : 接続先の IP アドレス.

<接続先ポート> : 接続先のポート番号.

2.3.2. CaoController::AddVariable メソッド

CPU ユニット情報を取得/設定する変数オブジェクトを作成します。

書式 AddVariable(<bstrName:BSTR > [,<bstrOption:BSTR>])

bstrName : [in] 変数名

bstrOption : [in] オプション文字列

表 2-3 CaoController::AddVariable のオプション文字列

オプション	意味
Param=<変数パラメータ>	変数のパラメータを設定します。
VT=<変数型>	デバイスメモリに入出力する場合に使用するデータの型を指定します。
Type=<変数型>	VT オプションと同等です。 注) VT オプションと Type オプションを同時に指定した場合は、VT オプションで指定した値が優先されます。
Elem=<要素数>	変数の数を指定します。 16 進数で指定する場合は以下のフォーマットで入力してください。 0x[0-9,A-F]+, &H[0-9,A-F]+, [0-9,A-F]+H
Elements=<要素数>	変数の数を 16 進数で指定します。 注) Elem オプションと Elements オプションを同時に指定した場合は、Elem オプションで指定した値が優先されます。
Array=< True or False >	一要素の読み込み時も配列の形式で値を取得するかどうかを指定します。

ここで変数名の先頭にデバイスコードを入れることで、CPU ユニットを通じて、MELSE(Q シリーズ)にアクセスすることが出来ます。²

<デバイス> :

ビットデバイス : SM, X, Y, M, L, F, V, B, TS, TC, SS, SC, CS, CC, SB, S, DX, DY

ワードデバイス : SD, D, W, TN, SN, CN, SW, Z, R, ZR

<アドレス> := デバイスで指す変数のアドレス。アドレスは 10 進数, 16 進数値で指定します。

² 詳細はイーサネットコミュニケーションプロトコルリファレンスをご参照してください。

表 2-4 デバイス一覧

デバイス		デバイスコード	種別	アドレス指定方法	
特殊リレー		SM	ビット	10 進数	
特殊レジスタ		SD	ワード	10 進数	
入力		X	ビット	16 進数	
出力		Y		16 進数	
内部リレー		M		10 進数	
ラッチリレー		L		10 進数	
アナンシェータ		F		10 進数	
エッジリレー		V		10 進数	
リンクリレー		B		16 進数	
データレジスタ		D		ワード	10 進数
リンクレジスタ		W			16 進数
タイマ	接点	TS	ビット	10 進数	
	コイル	TC			
	現在値	TN	ワード		
積算タイマ	接点	SS	ビット	10 進数	
	コイル	SC			
	現在値	SN	ワード		
カウンタ	接点	CS	ビット	10 進数	
	コイル	CC			
	現在値	CN	ワード		
リンク特殊リレー		SB	ビット	16 進数	
リンク特殊レジスタ		SW	ワード	16 進数	
ステップリレー		S	ビット	10 進数	
ダイレクト入力		DX	ビット	16 進数	
ダイレクト出力		DY		16 進数	
インデックスレジスタ		Z	ワード	10 進数	
ファイルレジスタ		R	ワード	10 進数	
		ZR		10 進数	

(例) "X0" , "Y1F" , "D50" , "M350"

2.3.2.1. Param オプション

以下に Param オプションの接続パラメータ文字列を示します。ここで角括弧("[]")内のパラメータは省略可能を示します。

"[Param=

[<ネットワーク番号>:<PC 番号>:<要求先ユニット I/O 番号>:<要求先ユニット 局番号>[:<CPU 監視タイマ>]]"

- <ネットワーク番号> : ネットワーク番号. デフォルトは 00_H です.
- <PC 番号> : PC 番号. デフォルトは FF_H です.
- <要求先ユニット I/O 番号> : 要求先ユニット I/O 番号. デフォルトは 03FF_H です.
- <要求先ユニット 局番号> : 要求先ユニット 局番号. デフォルトは 00_H です.
- <CPU 監視タイマ> : CPU 監視タイマ. デフォルトは 0000_H(無限待ち)です.

(例) "X0", "Param = 00:FF:03FF:00:0000" X0 値を取得します

表 2-5 指定可能な要求先ユニット I/O 番号一覧

	相手機器のアクセス局	相手機器が指定する要求先ユニット I/O 番号
1	制御系 CPU	03D0 _H
2	待機系 CPU	03D1 _H
3	A 系 CPU	03D2 _H
4	B 系 CPU	03D3 _H
5	マルチ CPU システム 1 号機	03E0 _H
6	マルチ CPU システム 2 号機	03E1 _H
7	マルチ CPU システム 3 号機	03E2 _H
8	マルチ CPU システム 4 号機	03E3 _H
9	管理 CPU	03FF _H
10	マルチドロップ接続上の局の C24 の管理 CPU(最後に経由する CC-Link IE コントローラネットワーク, CC-Link IE フィールドネットワーク, MELSECNET/10 接続局のシーケンサへアクセス時は上記 1~9 を指定)	0000 _H ~01FF _H

表 2-6 指定可能な要求先ユニット局番号一覧

	相手機器のアクセス局	相手機器が指定する要求先ユニット局番号
1	下記以外の局	00 _H (0)
2	マルチドロップ接続上の局(最後に経由する CC-Link IE コントローラネットワーク, CC-Link IE フィールドネットワーク, MELSECNET/H, MELSECNET/10 接続局の Q/L/QnACPU へアク セス時は上記 1 による)	00 _H ~1F _H (0~31)

2.3.2.2. VT オプション

読み書きするデータ型と一要素あたりの点数を指定します(1 点 = 1 bit). VT オプションの省略時は, Type オプションで指定されたデータ型が設定されます. また VT オプションと Type オプションの両方が省略された場合は, 変数に指定したデバイスによりデフォルトの値が設定されます. 変数にビットデバイスを指定した場合は"Bit"が, ワードデバイスを指定した場合は"Word"がデフォルトの値となります.

表 2-7 指定可能な VT オプションの一覧

Type	データ型	点数/要素数	意味
Bit	VT_I2	1 点	ビット単位(1 点単位)で読み書きします. 注)ビットデバイス(X,Y,M 等)のみに指定できます.
Bool	VT_BOOL	1 点	ビット単位(1 点単位)で読み書きします. 注)ビットデバイス(X,Y,M 等)のみに指定できます.
I1	VT_I1	8 点	8 点単位で読み書きします. 注)Elements オプションまたは Elem オプションで奇数個の要素数を指定し書き込みをした場合, 偶数個の要素として扱い, 追加した 8 点分を 0 埋めし書き込みを行います. 例)変数名: X0 オプション: VT=I1,Elem=1 の場合 値を代入時に X8~XF はすべて 0 になります.
UI1	VT_UI1	8 点	8 点単位で読み書きします. 注)Elements オプションまたは Elem オプションで奇数個の要素数を指定し書き込みをした場合, 偶数個の要素として扱い, 追加した 8 点分を 0 埋めし書き込みを行います. 例)変数名: X0 オプション: VT=UI1,Elem=1 の場合 値を代入時に X8~XF はすべて 0 になります.

I2	VT_I2	16 点	ワード単位(16 点単位)で読み書きします。
Word			
UI2	VT_UI2	16 点	16 点単位で読み書きします。
I4	VT_I4	32 点	32 点単位で読み書きします。
UI4	VT_UI4	32 点	32 点単位で読み書きします。
R4	VT_R4	32 点	32 点単位で読み書きします。
Float			
R8	VT_R8	64 点	64 点単位で読み書きします。
Double			
BSTR	VT_BSTR	8 点	ASCII(1 文字:8 bit)の文字列を読み書きします。 注) Elements オプションで指定された要素数より短い文字列が書き込みされた場合は、残りの点を 0 埋めます。
String			

"[VT=[<VT オプション文字列>]]"

(例) "X0", "VT = I2" X0 から XF の値を VT_I2 型として読み書きします。

2.3.2.3. Type オプション

VT オプションと同等のオプションです(非推奨)。Type オプションと VT オプションを同時に指定された場合は VT オプションが優先されます。

2.3.2.4. Elem オプション

要素数を 10 進数, または 16 進数で指定します. 10 進数で指定する場合はそのまま数値を指定してください. 16 進数で指定する場合は 0x[0-9,A-F]+, &H[0-9,A-F]+, または [0-9,A-F]+H の形式で指定してください. Elem オプションの省略時は Elements オプションで指定された要素数が設定されます. また Elem オプションと Elements オプションの両方を省略した場合のデフォルトの値は 1 となります.

表 2-8 指定可能範囲

VT オプション	デバイスタイプ	指定可能範囲		
		アクセス局-1 ³	アクセス局-2 ⁴	アクセス局-3 ⁵
Bit, Bool	ビットデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 7168	1 ≤ 要素数 ≤ 3584	1 ≤ 要素数 ≤ 160
I1, UI1, BSTR,	ビットデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 1920	1 ≤ 要素数 ≤ 960	1 ≤ 要素数 ≤ 20
String	ワードデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 1920	1 ≤ 要素数 ≤ 960	1 ≤ 要素数 ≤ 128
I2, UI2, Word	ビットデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 960	1 ≤ 要素数 ≤ 480	1 ≤ 要素数 ≤ 10
	ワードデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 960	1 ≤ 要素数 ≤ 480	1 ≤ 要素数 ≤ 64
I4, UI4, R4, Float	ビットデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 480	1 ≤ 要素数 ≤ 240	1 ≤ 要素数 ≤ 5
	ワードデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 480	1 ≤ 要素数 ≤ 240	1 ≤ 要素数 ≤ 32
R8, Double	ビットデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 240	1 ≤ 要素数 ≤ 120	1 ≤ 要素数 ≤ 2
	ワードデバイス	1 ≤ 要素数 ≤ 240	1 ≤ 要素数 ≤ 120	1 ≤ 要素数 ≤ 16

"[Elem = [<要素数>]]"

- (例) "X0", "Elem = 5" X0 から X4 の値をビット値として取得します
- (例) "D10", "Elem = 0x10" D10 から D25 の値をワード値として取得します
- (例) "D10", "Elem = &H10" D10 から D25 の値をワード値として取得します
- (例) "D10", "Elem = 10H" D10 から D25 の値をワード値として取得します
- (例) "X100", "Type = Word, Elem = 2" X100 から X131 の値をワード単位で取得します

³ 「アクセス局-1」は, 次のいずれかの局に対するアクセスを示します.

- ① C24/E71 装着局(自局)
- ② Q/L シリーズ対応ネットワークシステム(CC-Link IE コントローラネットワーク, MELSECNET/H, MELSECNET/10, Ethernet)経由の Q/LCPU 局(他局)/CC-Link IE フィールドネットワークのインテリジェントデバイス局/MELSECNET/H リモート I/O 局
- ③ 上記①②の C24 とマルチドロップ接続の Q/LCPU 局

⁴ 「アクセス局-2」は, 次のいずれかの局に対するアクセスを示します.

- ① QnA シリーズ対応ネットワークシステム(MELSECNET/10,Ethernet)経由の Q/QnACPU 局(他局)/MELSECNET/10 リモート I/O 局
- ② 上記①に装着の C24 とマルチドロップ接続の Q/QnACPU 局(他局)
- ③ QnACPU とネットワークシステム(MELSECNET/H, MELSECNET/10, Ethernet)経由の Q/QnACPU 局(他局)/MELSECNET/H, MELSECNET/10 リモート I/O 局

⁵ 「アクセス局-3」は, 上記 *7,*8 以外の局に対するアクセスを示します. (例) Q/L/QnACPU 局以外のシーケンサ CPU(他局)

2.3.2.5. Elements オプション

Elem オプションと同じく要素数を指定するオプションです(非推奨)。Elements オプションでは要素数を 16 進数で指定してください。Elements オプションと Elem オプションを同時に指定された場合は Elem オプションが優先されます。

2.3.2.6. Array オプション

Elem オプションで 1 指定し、尚且つ VT オプションで BSTR 以外または Type オプションで String 以外指定した場合、読み込んだ値を配列の形式で取得するかどうかを指定します。True を指定した場合は配列の形式で、False を指定した場合は指定したデータ型の形式となります。Array オプションを省略した場合のデフォルトの値は False となります。

"[Array=[< True or False >]]"

(例) "X0", "VT=BOOL, Elem = 1, Array=True"

X0 の値を BOOL 型の配列として取得します

(例) "X0", "VT=BOOL, Elem = 1, Array=False"

X0 の値を BOOL 型として取得します

2.4. エラーコード

MELSEC QnA3E プロバイダでは、以下の固有エラーコードが定義されています。また、ORiN2 共通エラーについては、「ORiN2 プログラミングガイド」のエラーコードの章を参照してください。

表 2-9 固有エラーコード

エラー名	エラー番号	説明
内部エラー	0x80100000	TCP 通信における内部エラー。
ユニットエラー	0x8010xxxx	CPU ユニットでエラーが発生した場合は、CPU ユニットのエラーコードをxxxxの箇所に入れて返します。エラーコードの内容についてはCPU ユニットのリファレンスを参照してください。
応答異常 (フォーマットエラー)	0x80110000	応答パケットが想定外の場合に返ります。 交信データコードが PLC の設定と異なる場合もこのエラーが返ります。

2.5. サンプルプログラム

MELSEC QnA3E プロバイダと Visual C# を使った簡単なサンプルプログラムを紹介します。サンプルプログラムの全容は下記のフォルダにありますので参考にしてください。

" <ORiN2 SDK インストールフォルダ

>¥CAO¥ProviderLib¥Mitsubishi¥MELSEC¥QnA3E¥SAMPLES¥QnA3ESample"

The screenshot shows a Windows application window titled "QnA3ESampleForm". It contains two main sections: "CaoController" and "CaoVariable".

CaoController section includes:

- IpAddress: 192 : 168 : 225 : 110
- Port: 1026, with an unchecked "ASCII" checkbox and "AddCtrl" and "ClearCtrl" buttons.
- Timeout (ms): 5000

CaoVariable section includes:

- Device: (empty text box)
- VT: BIT (dropdown), Elem: 1 (spin box), and an unchecked "Array" checkbox.
- NetworkNo: 00, PCNo: FF, I/ONo: 03FF
- StationNo: 00, CPUTimer: 0010, and an "AddVar" button.

The screenshot shows a Windows application window titled "VariableForm". It contains the following fields and controls:

- Name: X0
- Option: Param=00:FF:03FF:00:0010, VT=BIT, Elem=1, Array=False
- Type: (empty text box)
- Value: (empty text box)
- Read: (button)
- Value: (empty text box)
- Write: (button)

3. 付録

3.1. 他局アクセス

三菱電機製シーケンサ Q シリーズは他局アクセス(親 PLC 経由で子 PLC の値を取得/書込)を行うことができます。本項では他局アクセスための設定手順を図 3-1 の構成を例に説明します。なお、親 PLC-子 PLC は汎用 Ethernet で接続していることを想定しています。接続は必ず Ethernet ユニットを使用してください。内蔵 Ethernet ユニット経由でのアクセスはできません。Ethernet ユニット間はハブまたはクロスケーブルを用いて接続してください。

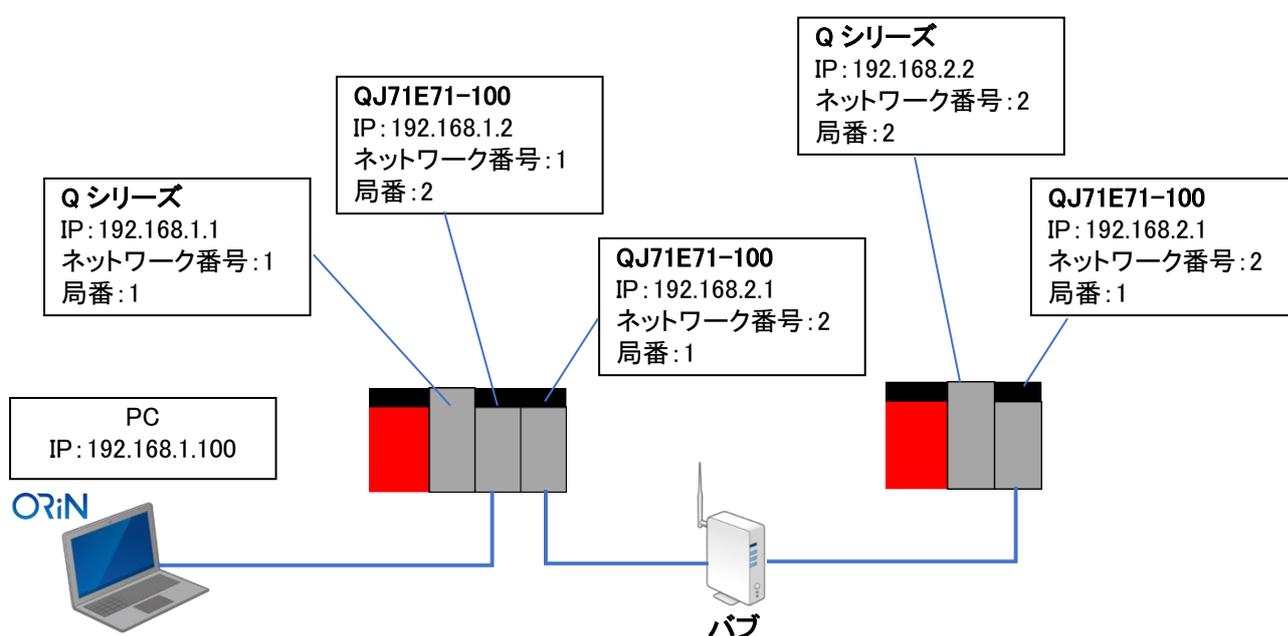


図 3-1 構成図

3.1.1. 親 PLC の設定

3.1.1.1. 内蔵 Ethernet ユニットの設定

図 3-2 の①～④に内蔵 Ethernet ユニットの設定手順を示します。

- ① PLC 接続後、ナビゲーションツリーメニューの「PC パラメータ」をクリックします。
- ② Q パラメータ設定画面で IP アドレスとサブネットマスクを入力します。
- ③ MELSOFT 接続拡張設定を開きます。
- ④ 「MELSOFT 接続拡張設定:使用する」を選択し、ネットワーク No. と局番を入力してください。

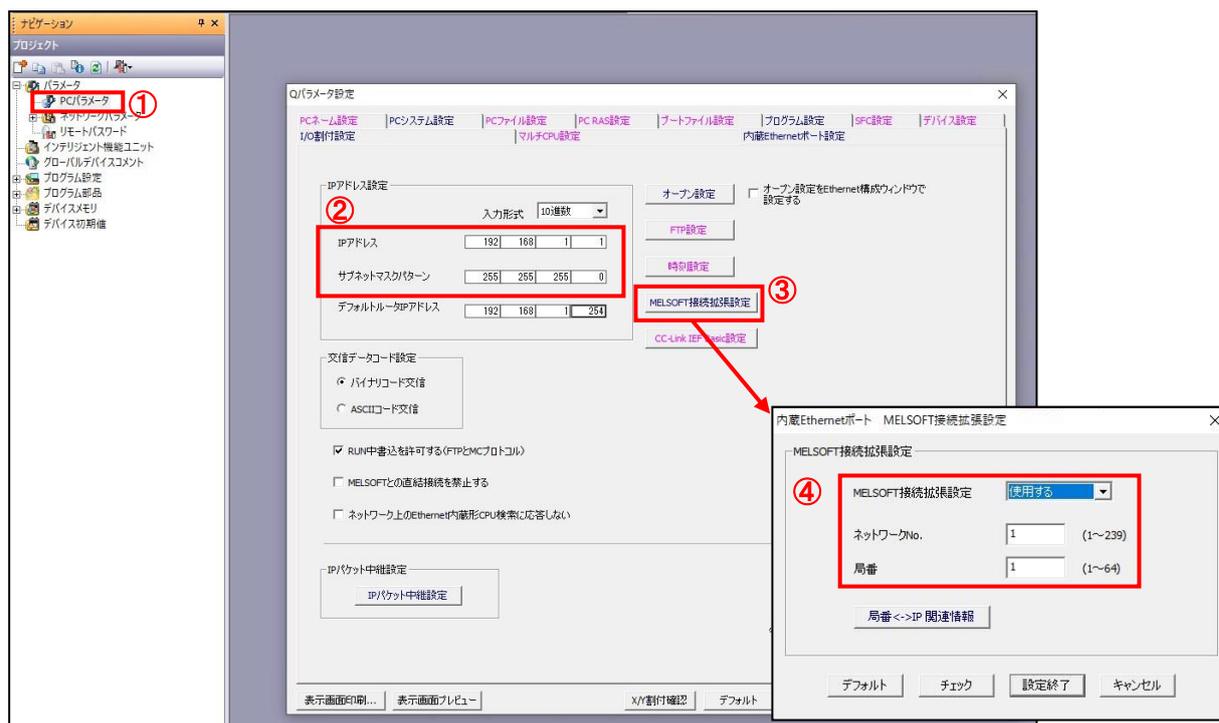


図 3-2 内蔵 Ethernet ユニットパラメータ設定(親 PLC)

3.1.1.2. 拡張 Ethernet ユニット 1 の設定

図 3-3 の①～④に拡張 Ethernet ユニット 1 の設定手順を示します。

- ① ナビゲーションツリーメニューの「Ethernet/CC IE/MELSECNET」をクリックします。
- ② ユニット 1 の設定で「ネットワーク種別:Ethernet」を選択し、ネットワーク No. と局番を入力します。
- ③ 動作設定を開きます。
- ④ IP アドレスを入力してください。

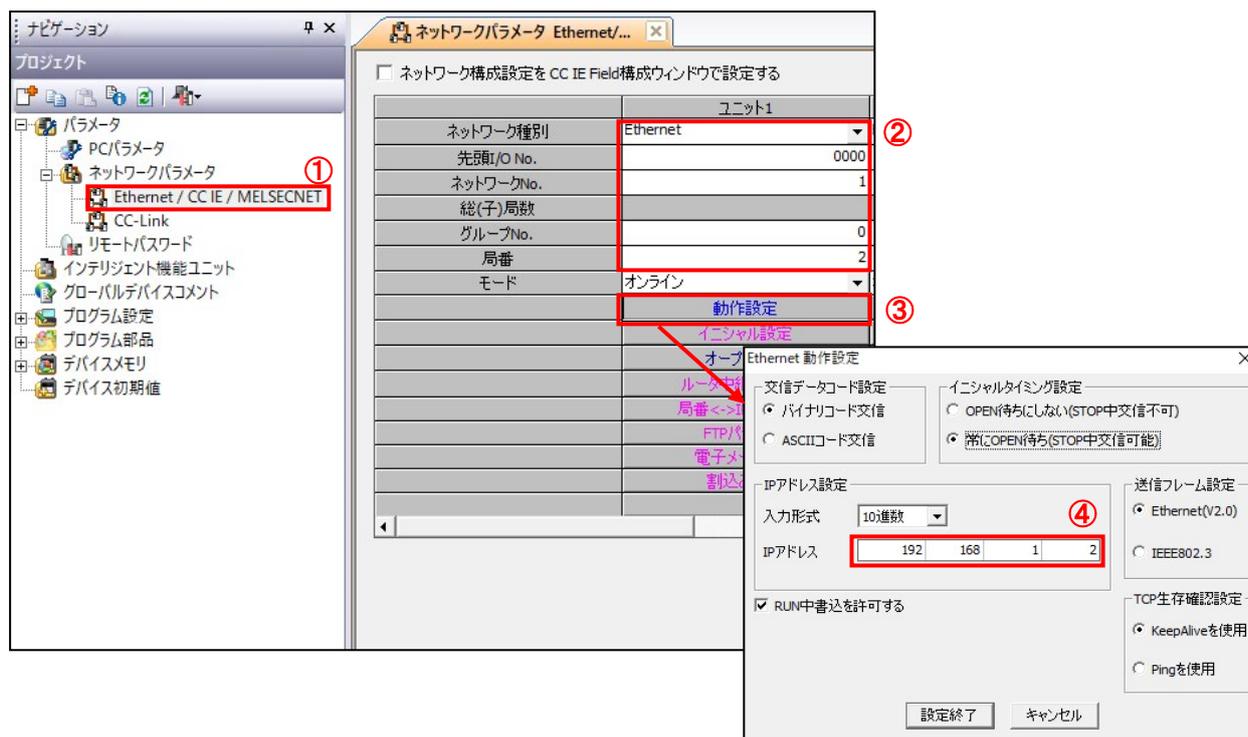


図 3-3 拡張 Ethernet ユニット 1 パラメータ設定

3.1.1.3. 拡張 Ethernet ユニット 2 の設定

図 3-4 の①～⑤に拡張 Ethernet ユニット 2 の設定手順を示します。設定画面を表示する手順は 3.1.1.2 の手順①と共通です。

- ① ユニット 2 の設定で「ネットワーク種別:Ethernet」を選択し、ネットワーク No. と局番を入力します。
- ② 動作設定を開きます。
- ③ IP アドレスを入力してください。
- ④ 局番<->IP 関連情報を開きます。
- ⑤ 「局番<->IP 関連情報設定方式:テーブル変換方式」を選択し、子 PLC の拡張 Ethernet ユニットのネットワーク No. と局番と IP アドレスを入力してください。

図 3-4 拡張 Ethernet ユニット 2 パラメータ設定

図 3-4 拡張 Ethernet ユニット 2 パラメータ設定

3.1.2. 子 PLC の設定

3.1.2.1. 内蔵 Ethernet ユニットの設定

図 3-5 の①～④に内蔵 Ethernet ユニットの設定手順を示します。

- ① PLC 接続後、ナビゲーションツリーメニューの「PC パラメータ」をクリックします。
- ② Q パラメータ設定画面で IP アドレスとサブネットマスクを入力します。
- ③ MELSOFT 接続拡張設定を開きます。
- ④ 「MELSOFT 接続拡張設定:使用する」を選択し、ネットワーク No. と局番を入力してください。

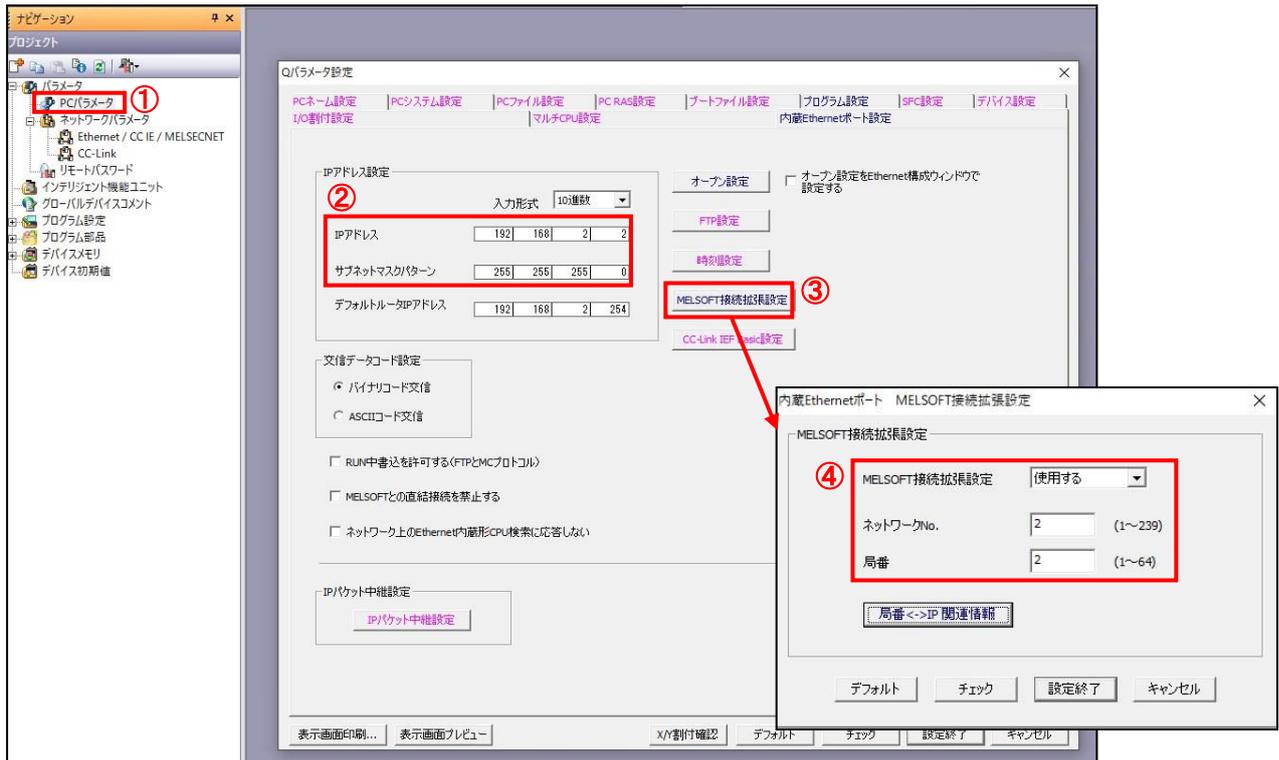


図 3-5 内蔵 Ethernet ユニットの設定(子 PLC)

3.1.2.2. 拡張 Ethernet ユニットの設定

図 3-6 の①～④に拡張 Ethernet ユニット 1 の設定手順を示します。

- ① ナビゲーションツリーメニューの「Ethernet/CC IE/MELSECNET」をクリックします。
- ② ユニット 1 の設定で「ネットワーク種別:Ethernet」を選択し、ネットワーク No. と局番を入力します。
- ③ 動作設定を開きます。
- ④ IP アドレスを入力してください。

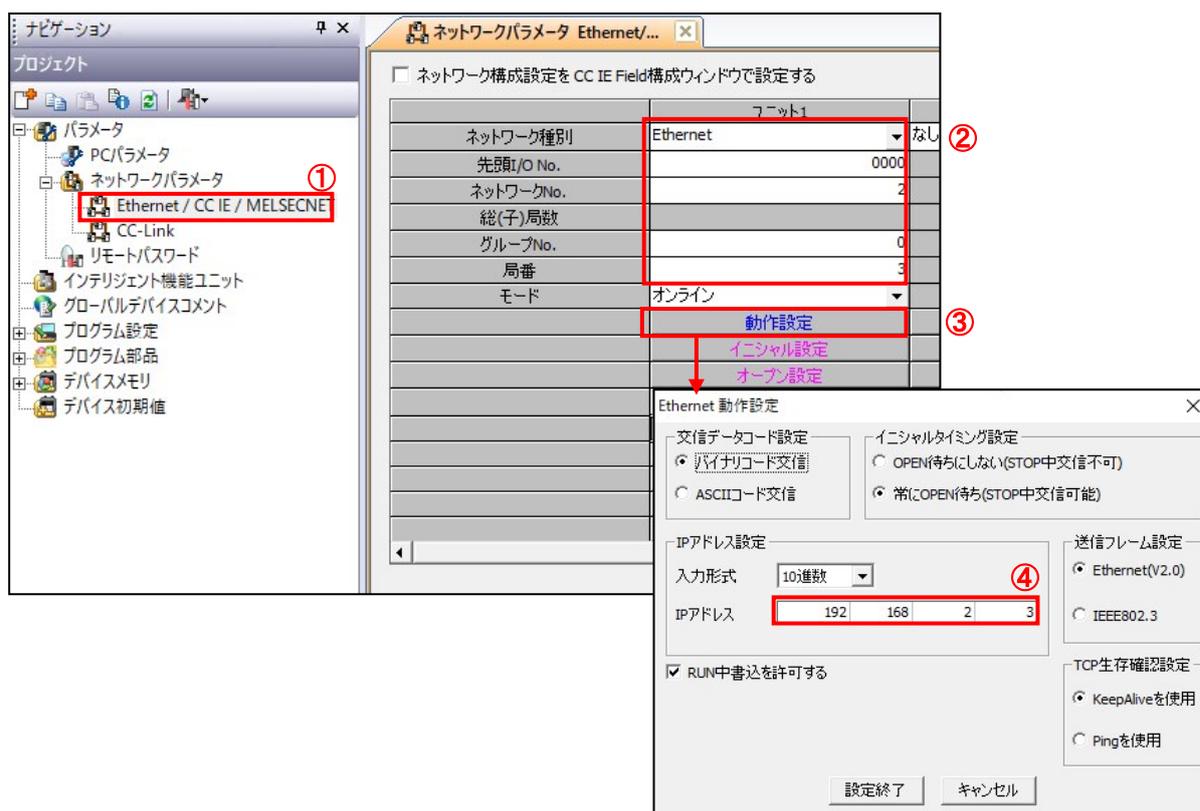


図 3-6 拡張 Ethernet ユニットの設定(子 PLC)

3.1.3. 接続パラメータ設定

他局アクセスするためには変数オブジェクト作成時に以下のパラメータを設定してください。

"Param=

<ネットワーク番号>:<PC 番号>:<要求先ユニット I/O 番号>:<要求先ユニット 局番号>[:<CPU 監視タイマ>]"

<ネットワーク番号> :子 PLC のネットワーク番号(16 進数).

<PC 番号> :子 PLC の局番(16 進数).

<要求先ユニット I/O 番号> : 03FF(管理 CPU).

<要求先ユニット 局番号> : 00(非マルチドロップ接続).

<CPU 監視タイマ> : 任意.

(例) "X0", "Param = 02:03:03FF:00:0000" ネットワーク番号 2, 局番 3 の PLC の X0 値を取得します